

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成30年6月28日(2018.6.28)

【公表番号】特表2016-521784(P2016-521784A)

【公表日】平成28年7月25日(2016.7.25)

【年通号数】公開・登録公報2016-044

【出願番号】特願2016-518607(P2016-518607)

【国際特許分類】

C 0 8 J 5/18 (2006.01)

C 0 8 J 9/00 (2006.01)

C 0 8 L 23/00 (2006.01)

B 3 2 B 27/32 (2006.01)

B 3 2 B 27/36 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 J 5/18

C 0 8 J 9/00 C E S A

C 0 8 L 23/00

B 3 2 B 27/32 Z

B 3 2 B 27/32 1 0 3

B 3 2 B 27/36

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年5月14日(2018.5.14)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 8 】

望ましい領域が形成できる限り、ナノ包含添加剤の特定の状態または形態は重要でない。例えば、一部の実施形態では、ナノ包含添加剤は、室温（例えば、25 °C）で液体または半固体の形態でありうる。このような液体は、マトリクス中に容易に分散されて、準安定分散を形成し、その後クエンチされて、混合物の温度を低下させることによって領域サイズを保存できる。液体または半固体材料などの動粘度は、40 °Cで決定される時、典型的には約0.7 ~ 約200センチストーク（「c s」）、一部の実施形態では約1 ~ 100 c s、および一部の実施形態では約1.5 ~ 約80 c sである。適切な液体または半固体には、例えば、シリコーン、シリコーン-ポリエステル共重合体、脂肪族ポリエステル、芳香族ポリエステル、アルキレングリコール（例えば、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、テトラエチレングリコール、プロピレングリコール、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、ポリブチレングリコールなど）、アルカンジオール（例えば、1,3-プロパンジオール、2,2-ジメチル-1,3-プロパンジオール、1,3-ブタンジオール、1,4-ブタンジオール、1,5-ペンタンジオール、1,6-ヘキサンジオール、2,2,4-トリメチル-1,6-ヘキサンジオール、1,3-シクロヘキサジメタノール、1,4-シクロヘキサジメタノール、2,2,4,4-テトラメチル-1,3-シクロブタンジオールなど）、アミノオキシド（例えば、オクチルジメチルアミン・オキシド）、脂肪酸エステル、脂肪酸アミド（例えば、オレアミド、エルカミド、ステアラミド、エチレンビス（ステアラミド）など）、鉱物、および植物油などを含みうる。一つの特に適切な液体または半固体は、B A S F C o r p の商標 P L U R I O L（登録商標） W I で市販されているものなどのポ

リエーテルポリオールである。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

高分子ナノ包含添加剤の別の例は、極性および非極性成分を含む官能性ポリオレフィンである。例えば、極性成分は一つ以上の官能基によって提供され、非極性成分はオレフィンによって提供されうる。ナノ包含添加剤のオレフィン成分は、概して、上述のようなオレフィンモノマーから由来する任意の直鎖または分岐 - オレフィンモノマー、オリゴマー、またはポリマー（共重合体を含む）から形成されうる。ナノ包含添加剤の官能基は、分子に極性成分を提供し、ポリオレフィンマトリクスポリマーと適合しない任意の基、分子セグメントおよび/またはブロックでありうる。ポリオレフィンと適合しない分子セグメントおよび/またはブロックの例には、アクリレート、スチレン、ポリエステル、ポリアミドなどが含まれうる。官能基は、イオン性質を持ち、荷電金属イオンを含みうる。特に適切な官能基は、無水マレイン酸、マレイン酸、フマル酸、マレイミド、マレイン酸ヒドラジド、無水マレイン酸とジアミンの反応生成物、メチルナド酸無水物、ジクロロマレイン酸無水物、マレイン酸アミドなどである。無水マレイン酸修飾ポリオレフィンは、本発明の使用に特に適している。このような修飾ポリオレフィンは、ポリマー骨格材料に無水マレイン酸をグラフトすることによって一般的に形成される。このようなマレイン酸化ポリオレフィンは、E. I. du Pont de Nemours and Company から Fusabond（登録商標）という名前で市販されており、P シリーズ（化学修飾ポリプロピレン）、E シリーズ（化学修飾ポリエチレン）、C シリーズ（化学修飾エチレン酢酸ビニル）、A シリーズ（化学修飾エチレンアクリレート共重合体またはターポリマー）、または N シリーズ（化学修飾エチレン - プロピレン、エチレン - プロピレンジエンモノマー（「EPDM」）またはエチレン - オクテン）などがある。代替的に、マレイン酸化ポリオレフィンは、Polybond（登録商標）という名称で Chemtura Corp. から、Eastman G シリーズという名称で Eastman Chemical Company から、および Orevac（登録商標）という商標で Arkema から市販されている。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0059

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0059】

例えば図 1 を参照すると、キャストフィルム形成方法の一つの実施形態が示されている。この実施形態では、原料（非表示）が、ホッパー 40 から押出機 80 に供給され、次に鋳造ロール 90 上に鋳造されて単一層の前駆体フィルム 10a が形成される。多層フィルムを製造する場合、複数の層は鋳造ロール 90 上に一緒に共押し出される。鋳造ロール 90 は随意に、エンボス要素とともに提供されて、フィルムにパターンを与える。一般的に、鋳造ロール 90 は、形成される際に、約 10 ~ 60 °C など、シート 10a が固体化し冷却するのに十分な温度に保たれる。望ましい場合、真空ボックスを、鋳造ロール 90 に隣接して位置付けて、前駆体フィルム 10a をロール 90 の表面の近くに保つのに役立てうる。さらに、エアナイフまたは静電ピナーは、前駆体フィルム 10a がスピニングロールの周りを動く時にそれを鋳造ロール 90 の表面に押し当てるのを助けうる。エアナイフは、空気の流れを非常に高い流速で集中させてフィルムの縁を固定する、当技術では知られている装置である。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0091

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0091】

91.5重量%のポリプロピレン(Total Petrochemicals M-3661)、7.5重量%のポリ乳酸(Natureworks Ingeo 6251D)、および1.0重量%のポリエポキシド修飾剤(Arkema Lotader AX8900)を含む材料の混合物が形成された。この混合物は次に、二軸スクリー押出機によって220°Cで溶融混合され、均一なポリマー混合物が形成された。溶融ポリマー混合物は多繊維金型を通して押し出され、水で冷却されて、Gala Industries(バージニア州、イーグルロック)から市販されているものなどの水中ペレット化システムでペレットに切断された。その後、合成されたペレットはキャストフィルム金型付きの単軸スクリー押出機(長さ対直径の比が24:1)に供給された。材料は220°Cの温度で溶融され、フィルム金型を通して、25°Cの温度で鑄造ロール上に押し出された。溶融延伸力が溶融フィルムに加えられ、厚さを約177~203マイクロメートルに減少させた。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0098

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0098】

78重量%のポリプロピレン(Total Petrochemicals M-3661)、15重量%のポリ乳酸(Natureworks Ingeo 6251D)、および7.0重量%のポリエポキシド修飾剤(Arkema Lotader AX8900)を含む材料の混合物が形成された。この混合物は次に、二軸スクリー押出機によって220°Cで溶融混合され、均一なポリマー混合物が形成された。溶融ポリマー混合物は多繊維金型を通して押し出され、水で冷却されて、Gala Industries(バージニア州、イーグルロック)から市販されているものなどの水中ペレット化システムでペレットに切断された。その後、合成されたペレットはキャストフィルム金型付きの単軸スクリー押出機(長さ対直径の比が24:1)に供給された。材料は220°Cの温度で溶融され、フィルム金型を通して、25°Cの温度で鑄造ロール上に押し出された。溶融延伸力が溶融フィルムに加えられ、厚さを約48~55マイクロメートルに減少させた。